

道の駅設置事業の進捗状況等について

令和4年8月23日
玉山総合事務所

道の駅の実施設計が完了したことから、その概要と現在の準備状況を報告するものである。

1 これまでの主な取組状況

- ・平成30年度 盛岡市道の駅基本計画を策定
- ・令和元年度 運営候補者を公募により選定
- ・令和2年度 基本設計、特産品開発に着手
- ・令和3年度 実施設計、用地取得

2 道の駅に導入する機能・施設

道の駅に導入する機能・施設については、「盛岡市道の駅基本計画(平成31年3月策定)」に掲げる次の整備目的と基本コンセプトに基づき、次のとおりとする。

<p>◆整備目的</p> <p>将来にわたり持続可能な地域を創る</p> <p>◆基本コンセプト</p> <p>道の駅は、私たちの未来を創る希望のステージ ～石川啄木が愛した盛岡・玉山を感じられる道の駅～</p>

(1) 道の駅に必須の機能・施設

道の駅は「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」と「地域の振興への寄与」を目的としており、市は、道の駅の必須機能である休憩、情報発信、地域連携の機能を有する施設を整備する。

(2) 近年多くの道の駅で導入されている機能・施設

(1)に加え、近年道の駅に求められている防災機能や子育て応援機能を兼ね備えた施設を整備する。

(3) 本道の駅で戦略的に導入する機能・施設

本道の駅の設置目的と基本コンセプトを実現するため、本道の駅においては産直等の地域振興施設の設置に留まらず、農業生産者や消費者が多く集まり、また産直物販やレストランという消費者と直接対話できる機能を持つ道の駅の特性を最大限生かしながら、地域経済の活性化や若者定住等地域の未来創造に積極的に取り組む拠点として、フューチャーセンターを設置する。

フューチャーセンターは、農業生産者や消費者(道の駅利用者)、地域住民、事業者、文京区の大学を中心とする学生や地元高校生など多様な関係者が自由に集い、関係者に

よる情報交換や開かれた対話と連携の中から、新たな価値やサービスを創造するオープンイノベーション空間とする。

図ー1 道の駅に導入する機能及び施設一覧

機能分類	個別機能	施設・設備等
道の駅に 必須の機能	休憩機能	・24時間利用可能な トイレ及び駐車場（登録要件）
	情報発信機能	・道路情報等提供施設（登録要件）
	地域連携機能	・産直等物販施設 ・レストラン ・テナント
近年多くの 道の駅で 導入されている 機能	防災機能	・非常用発電設備等
	子育て応援機能	・屋内子どもの遊び場 ・子育て応援自販機（おむつ等） ・授乳室（登録要件）
+		
本道の駅で 戦略的に 導入する機能	・未来創造機能 ・オープンイノベーション機能	・フューチャーセンター

3 施設の概要

基本計画に掲げる基本コンセプトである「石川啄木が愛した盛岡・玉山を感じられる道の駅」を具現化するため、次のとおり施設整備を行う。

(1) デザインの基本方針

- ア 岩手山と姫神山の眺望と故郷を想起させる自然景観を活かした意匠・空間配置
- イ 石川啄木が過ごした渋民の里山の地形の活用
- ウ 渋民地区との連続性を持った意匠・空間配置

(2) 施設配置の特徴（別紙 1-1 のとおり。）

- ア 岩手山と姫神山を結ぶ景観軸の設定【森の大通り】
- イ 岩手山と姫神山を望む特徴の異なる広場の配置【岩手山原っぱ及び姫神山テラス】
- ウ 既存樹木をいかした里山の風景の創出【継承の森】
- エ 石川啄木記念館につながる散策路の設置【啄木の道】
- オ 渋民の街とつながるアクセス路の設置

(3) 設計における特記事項

- ア 建物は一部を除き木造とし、市産材を積極的に活用
- イ ユニバーサルデザインの積極的導入
- ウ 二酸化炭素排出抑制のため、地中熱活用による冷暖房設備を導入

(4) 啄木を感じられるロゴ・サインイメージの導入

道の駅の各施設において、啄木の短歌の特徴である三行書きや啄木の筆記体を模したロゴタイプなど啄木を感じられるロゴ・サインイメージを導入する。

【導入例】



(5) 啄木の里としての統一したデザインの導入

道の駅と石川啄木記念館の施設内や渋民市街地の市道などにおいて、統一したデザインによる誘導サインを設置し、啄木の里づくりエリアとしての一体感を醸成する。

(6) 施設概要 別紙 1-2 のとおり。

4 道の駅に導入する施設の特徴

(1) 休憩施設

ア トイレ

道の駅利用者調査結果から、トイレが清潔であるかどうか利用者が満足度に関わることから、清潔感があり、広い個室を有したトイレを整備する。

また、多機能トイレを設けるとともに、男女双方のトイレに、家族で使える大型ブース（ファミリートイレ）を2室設け、うち1室はオストメイト対応とする。

イ 駐車場

駐車場は安全で十分な規模とし、二輪車（自転車を含む。）の駐車スペースを確保するとともに、障がいのある方や妊婦の方が利用する「ひとにやさしい駐車場」スペースを、A棟（トイレ、情報提供施設、子どもの遊び場等）の入り口に配置する。

また、電気自動車に対応するEV充電施設を設置する。

(2) 情報提供施設

デジタルサイネージ等を活用した道路情報の提供設備を設置する。

また、来場者に石川啄木を紹介するとともに、石川啄木記念館への誘客を促進するため、啄木に関するミニ展示や企画展などを同記念館と協力して実施する。

本施設は国土交通省の整備施設であるが、本市と連携し、観光や災害情報なども併せて発信する方向で協議を進めている。

(3) 地域連携施設

ア 産直等物販施設（B棟）

盛岡・玉山地域の農畜産物や加工品など地域資源を発信するため、物販棟内に産直を設置するとともに、盛岡ブランド商品や土産品などの物産店舗を設ける。

物産店舗には、本市が構成員となっている盛岡・八幡平広域観光圏や友好都市の物販・PRコーナーを設置し、各自治体の特色ある商品の販売等を通じて、店舗の魅力化を図るとともに、構成自治体との物販交流等への展開を検討する。

イ レストラン（F棟）

フードコートスタイルのレストランを設置する。

ガラス面をふんだんに利用し、利用者が開放感と岩手山を見渡す絶好のロケーションが堪能できるとともに、市産材等を活用し木の香り漂う明るい雰囲気の内では、地場食材を生かした創作料理や啄木を感じられるメニューなどを楽しむことができる。

ウ テナント（D・E棟）

テナント棟は、広さの異なる2種類6区画を整備する。

盛岡・玉山地域の資源を活用した新商品やサービス等を生み出そうとする事業者等の挑戦の場を設けることで「道の駅の魅力・集客力の向上」を図るとともに、本道の特徴である眺望やランドスケープをいかし、利用者に対し居心地の良い空間（サードプレイス）を提供することで「利用者の滞在時間の延長」を図ることを目的として整備し、テナント入居事業者は公募により選定する。

また、これまでの道の駅の主要利用者層でなかった若者や子育て世代を呼び込むため、そのニーズに即したコンテンツを導入することで、道の駅の賑わい創出を図る。

【テナントのテーマ例】

- 道の駅のロケーションを生かしたバーベキューなどアクティビティの創出
- 地元食材を活用したスイーツ店、カフェ
- フューチャーセンターを活用したクッキングスタジオなどの体験型コンテンツ
- 盛岡・玉山エリアのアウトドアをテーマとした商品、体験型サービス

(4) 防災施設・設備

近年多くの道の駅に導入されている防災機能について、本道の駅は「道路利用者の一時避難場所」を目的として、次の施設・設備を整備する。

- ・ 停電時の携帯電話の充電などに対応する非常用発電設備を設置。
- ・ レストラン棟の地階に整備する倉庫及び資機材庫は、防災資機材庫の機能を兼用。
- ・ 自動販売機の一部に、災害時のベンダー機能を有するものを導入。
- ・ 駐車場は、防災道の駅の基準を満たす規模で整備。
- ・ 道路情報提供施設には、災害時の情報発信機能を付加。

(5) 子育て応援施設・設備

あらゆる人々が訪れる・訪れたい道の駅とする基本計画の施設の整備方針を実現する手段として、これまで道の駅の主要な利用者層ではなかった子育て世代を呼び込むため、次の施設・設備を整備する。

ア 子どもの遊び場

屋内外に、子どもを遊ばせながら親がゆったりとした時間を過ごせる空間（遊び場）を整備する。

A棟に設置する屋内遊び場は、子どもに人気の「ふわふわドーム」を設置する。この「ふわふわドーム」は、空気の利用した膜のトランポリンで、屋内型は東北初の施設。



御所湖公園（雫石町）

イ 授乳室

ウ 子育て応援自販機（おむつ等の販売）

(6) フューチャーセンター（C棟）

地域住民や学生、企業などが集い、開かれた対話の中から、多様なアイデアや価値を生み出すため、施設は自由に座席配置ができるようオープンな空間とするとともに、スク

リーンやWi-Fiなどの設備により、リモートによる参画にも対応する。

フューチャーセンターでは、玉山地域の最大の課題であり、また道の駅の特徴と親和性の高い「農業の再生」を中心テーマに、地域の農畜産物を使った新商品の開発や新たな販路・マーケットの開拓、農業の諸課題の解決に向けての提言等に取り組むこととするが、テーマについては農業に限らず中山間地域の振興など、地域や時代のニーズを踏まえ柔軟に対応する。

【活用例】

○地元農畜産物を活用した商品開発

石川啄木生誕・終焉の地の縁から友好都市となった東京都文京区内の4大学と連携し実施しているアグリイノベーション事業や、市内高校生・学生と地元製造事業者等プロの大人のコラボレーションによるモリのタネプロジェクトの活動拠点とするとともに、生産者や加工・製造事業者（企業）等が参画する商品開発の拠点とする。

○地域課題解決の実践型プログラムの実施及び支援

フューチャーセンターを拠点として、地域をテーマとした小中学校の総合学習や高校の探求学習と連携し、玉山地域をフィールドとした実践型プログラムの実施や講師の派遣を行うとともに、大学や高校等のゼミ合宿や研究、演習など受け入れる。

○市民や団体等の活動拠点

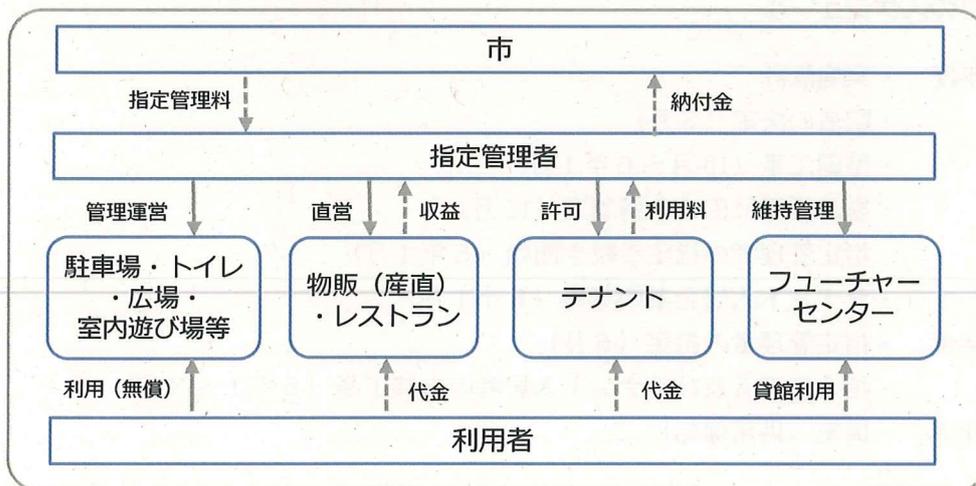
市内の住民や団体が行う各種講座や教室に活動場所を提供。

5 道の駅の管理運営

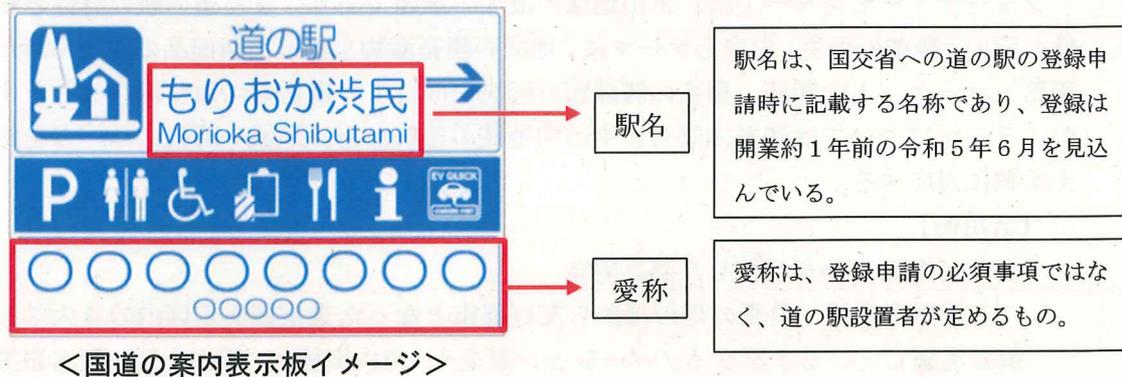
道の駅については、指定管理者が、施設全体の管理運営を担う。

テナントについては、市が指定管理者に使用許可の権限を委任し、使用料は利用料金として、指定管理者が収受することとする。

図-2 施設の管理運営スキーム



6 道の駅の駅名



(1) 駅名

「道の駅 もりおか渋民」

駅名は、利用者に対し設置場所が容易に分かるよう「自治体名」及び「設置場所の地名」を併記する。「もりおか」の表記は、市民に親しまれる道の駅として「ひらがな」を用い、「渋民」の表記は、渋民公園や渋民尋常小学校など啄木ゆかりの施設等と同様に「漢字」を用いるものである。

なお、全国及び東北における駅名の傾向や県内道の駅の事例は、参考資料のとおり。

(2) 愛称

市民や利用者に愛される道の駅とするため、本道の駅に愛称を設定する。

駅名と愛称を組み合わせ、自治体名や設置場所の表示と啄木など市民に親しまれる愛称を一体化することで、設置場所の周知やPRなどの相乗効果を得ようとするものである。愛称は公募により選定することとし、公募時期は5年4月を予定している。

7 開業までのスケジュール

- 令和4年度
 - ・実施設計
 - ・駅名の決定（8月）
 - ・整備工事（10月～6年1月）
 - ・施設設置に係る条例制定（12月）
 - ・指定管理者の指定手続き開始（5年1月）
 - ・テナント入居企業の募集（5年1月）
- 5年度
 - ・指定管理者の指定（6月）
 - ・指定管理者及びテナント入居者の内装工事（6年1～3月）
- 6年春
 - ・開業（供用開始）

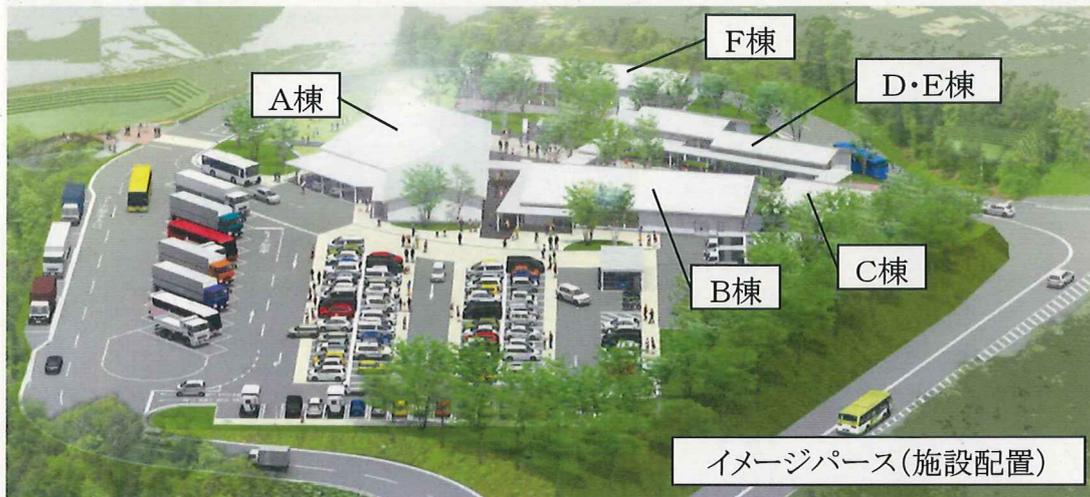


イメージパース(道の駅全景)



実施設計へ落とし込んだデザインの基本方針

道の駅の施設概要



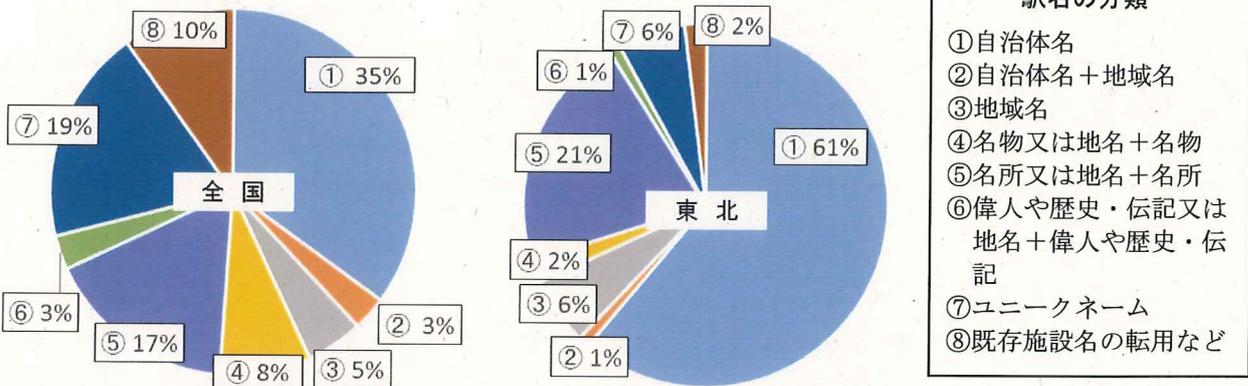
◆敷地面積 35,224.75 m² (国土交通省所管の道路区域を含む。)

施設	建築面積	内容
A棟	582.46 m ²	○トイレ (全洋式) 172.74 m ² 男性用：5器、個室4室 (うち大型ブース1室、オストメイト1室) 女性用：個室17室 (うち大型ブース1室、オストメイト1室) 多機能：大型ブース1室 ○情報提供施設 118.96 m ² ○子どもの遊び場 107.53 m ² ○授乳室 8.00 m ² ○駐輪場 112.39 m ²
B棟	392 m ²	○物販店舗 226.00 m ² ○テイクアウトコーナー 33.0 m ² (2区画) ○事務室等 133.00 m ²
C棟	132 m ²	○フューチャーセンター
D棟	128 m ²	○テナント棟 32 m ² (4区画)
E棟	132 m ²	○テナント棟 66 m ² (2区画)
F棟	602.32 m ²	○1階：レストラン、厨房、冷蔵室、食品庫、研修室、トイレ (男性用2器及び個室2室、女性用個室2室) ※男女とも個室のうち1室は大型ブース ○地階：機械室、従業員休憩室、ごみ置き場、倉庫、機材庫 ※倉庫、機材庫は、防災資機材倉庫を兼用
駐車場	6,558.81 m ²	小型車 89 台、大型車 16 台、ひとにやさしい駐車場 3 台 EV 充電用 2 台、荷捌・従業員用 20 台、二輪車 4 台

道の駅の駅名の傾向について

1 全国の駅名の傾向（道の駅プロデューサー調べ）

全国及び東北の道の駅の駅名は、概ね右に掲げる類型に分類され、下グラフの傾向となっている。



全国の特徴としては、自治体名が圧倒的シェアを占め、次いで名所とユニークネームとなっており、盛岡・玉山のような自治体名+地名は3%程度しかない。

東北においても、自治体名の割合が非常に多く、自治体名と名所又は地名+名所が8割を占める状況であり、全国と比較してユニークネームの割合が低い。

また、東北では全国と比較し、愛称を設定する割合が高い。（東北71%、全国平均15%）

2 県内の事例（道の駅整備推進室調べ）

分類	主な駅名
①	平泉（平泉町）、にしね（八幡平市）、いわいずみ（岩泉町）
②	はなまき西南（花巻市）
③	おりつめ（九戸村）
④	雫石あねっこ（雫石町）、三田貝分校（岩泉町）
⑤	遠野風の丘（遠野市）、巖美溪（一関市）、錦秋湖（西和賀町）
⑥	—
⑦	石神の丘（岩手町）、やまびこ館（宮古市）
⑧	—

1の分類により、県内の36の道の駅（令和5年4月開業予定の道の駅いわて北三陸を含む。）の駅名を見ると、自治体名が18駅と半数を占め、次いで名所又は地名+名所が8駅、ユニークネームが6駅となっている。

また、36駅中33駅で愛称を設定している。

例）北緯40° 岩手町（石神の丘）、岩手山 溶岩流の里（にしね）、いで湯の里（雫石あねっこ）、永遠の日本のふるさと（遠野風の丘）